

SCP財団・日本支部に就職して博士になったから財団の情報、公開するわ

抹茶のブラック

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

財団に就職し、博士になった紅井博士は何を思ったかSCPオブジェクトの情報を垂れ流し始めた！

もちろん、例のねこはいるし、鳥もいる。

そんな感じでSCPを紹介していきたいと思います。よろしくおねがいします。

SCP Foundation [http://www.sc  
pwiki.com/](http://www.sc<br/>pwiki.com/)

SCP財団 [http://sc  
p.jp.wiki.d  
o  
t.com/](http://sc<br/>p.jp.wiki.d<br/>o<br/>t.com/)

SCP Foundationはクリエイティブ・コモンズ表示  
継承3.0ライセンス作品です (CC-BY-SA3.0)

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/deed.ja>

## 目次

紅井博士の人事ファイル	1
オブジェクトクラスについて。	4
オブジェクト紹介 SCP	173
彫刻 オリジナル	6

## 紅井博士の人事ファイル

氏名：紅井<sup>あかい</sup> 守也<sup>かみや</sup>

所在：サイト81XXの博士、主にSeffekクラスのSCiPの管理、実験を行なっている。

以前の職務：特殊結成機動部隊・蚊帳<sup>かやのそと</sup>の外のリーダー。

人物　　つい最近、サイト81XXに就任した優秀な博士です。

紅井博士は研究者の頃、SCP-??-jpの実験に携わった際、脱走したSCP-??-jpの異常性の影響で外見が『ひとふさの赤いアホ毛』になってしまいました。

ですが、研究等に支障がないと判断され引き続き研究者として勤務していましたが「SCiPと戦このサイトには危険なSCiPが多数います。そのために機動部隊が結成されています。要するに、オレをその機動部隊に入れてください。」と当時の上司であった??博士は、面倒だから適当に機動部隊と話をつけたところ、わりとあっさり当時の紅井博士は部隊に入隊できました。部隊での成長は研究者時代よりも早く、大きく伸び、いつしか所属していた部隊のリーダーを務め、肉体労働に疲れ切った紅井博士は部隊を辞め、研究者に戻り現在の地位まで昇り詰めました。

紅井博士は、部隊に所属していた頃は非常に好戦的で、今も危険なSCiPが脱走した際にはとてつもなく鋭いブローメランを持ってSCiPの再度収容に協力します。

紅井博士は、ハッキリ言う問題ばかり起こし年間約??万円の損害を出しています。

日本支部のブライト博士とも呼ばれており、紅井博士にしてはいけないうことリストが作られているほどです。ここで注意してほしいことは紅井博士『に』してはいけないうことリストなので、紅井博士自身が行動を制限されているわけではありませんあいつ自身の行

動を制限するリストも作れよ!!!

ここでいくつかの例を挙げたいと思います。

1. 紅井博士に二丁拳銃を渡してはいけません。

SCP―??―jpが脱走した際、「スタイリツシュにいくぜ!!!」と叫びながら二丁拳銃を乱射し、部隊の??人が軽傷を負ったからです。

2. 紅井博士に『紅井博士』が片手で振り回せるほどの長剣を持たせてはいけません。

要注意団体・??が財団に侵入した時、「ステインガー!!!」と叫びながら侵入者に素早く突撃し、避けた侵入者の後ろにいた部隊の一人の腹部に長剣を刺し込み、二度と現場復帰できないような重傷を負わせたからです。(このことについては本人も反省し、今後は『できるだけ』使わないと言っています)

19. 絶対にブライト博士に会わせてはいけません。

理由は言わなくてもわかるでしょう。前に二人が接触した際、ここに一つ、ブライト博士の禁止リストに二つ禁止例が追加されました。

1 ? ? . ブライト博士の噂を鵜呑みにして、紅井博士のアホ毛を引きちぎって畑に植えると紅井博士が生えてくるなんてバカな行為はやめてください。引きちぎったアホ毛が瞬時に復活してもです。

普通に本人が痛がりりますし、アホ毛を植えて畑から生えてきた??は??もの被害を出したからです。

以上となります。

え? 博士がなぜ財団に就職したか、どうやって博士まで昇り詰めたかって?

さあ。

オブジェクトクラスについて。

「コーヒーを一杯。」

ソファアードパソコンをいじる「助手」に喉が乾いたからと注文するが

「え…『コーヒーを一杯』…ですか？」

「ん…ああ、『そっち』じゃないよ、喉が乾いたからコーヒーを淹れてくれて意味さ」

「あつ、はい。すみません…こんな仕事してますから一瞬びつくりしましたよ」

「ははは、そうだな。今度からはコーヒーを淹れてくれて伝えるよ」

オレ達が居るこの場所… サイトー 81XXは、と言うよりかこのSCP財団は『自然法則に反した異常な存在・場所・物体・現象』、通称・SCPオブジェクト。これらはそれぞれの「特別收容プロトコル(Special Containment Procedure)」の保護・研究を世界各国の政府より委任された秘密結社である。え、知らない？まあ、知ってたら記憶処理のアレをぶち込まれてまいたいつもの生活に戻るだろうからな。

オレは大丈夫なのかって？そりゃあオレは財団に選ばれた優秀な研究者だからな、つっても最近なつたばかりだが。

…何？SCPについて教えてほしい？

うーん、まあもしもの時はたまたま日本支部こっに居る財団の問題児ブライト博士に押し付けるか、どうせ禁止リストが増えるだけだし。

まず、SCPオブジェクト…オレらはScipと呼んでるが、まあオブジェクトでいいか。

SCPには大きく分けて三つのオブジェクトクラスに分かれています。

このオブジェクトクラスというものは危険度、と勘違いされることが多いが実際は『收容できるか否か』である。

さて、オブジェクトクラスはSecure, Eucclid, Keter

にわかれている。

Selfeは、現在の取り扱いで確実に永久収容できる。または故意に活性化させなければ安全。という位置付けである。

さつきも言った通り、Selfeだからと言って活性化させても安全ではないのである。

普通に人の命を奪ったり、文明を崩壊させたりとえげつないものもある。

Euclidは正体があまり分かっておらず、予測不可能なオブジェクトが多い。

だが、活性化したときはのちに紹介するKeterより被害が少ないものも多い。

基本的に知性や自我があるオブジェクトもここに割り振られる。

Keter。チート。すぐ逃げ出す。そもそも収容できてないものもいる。

もう保護じゃなくて破壊しろとまで言われているオブジェクトもいるが、未だに破壊できていない。

ミスれば世界が滅んじまうヤツもいる。

詳しい説明はこのオブジェクトクラスに割り振られているオブジェクトを紹介した方が早い。

ちなみにオブジェクトの異常性がなくなったものをNeutralizedと呼ぶ。

…ああ、もう時間だ助手の彼が戻ってくる。

次会うときは…そうだな、『最も有名なオブジェクト』を紹介しよう。

大丈夫、次会うときまで記憶は消されないさ。

なぜかって？

さあ。

オブジェクト紹介 SCP—173 彫刻 オリジナル

薄暗い研究室、ひとふさのアホ毛がパソコンの前で揺れていた。

………ああ、あんたか。

え？オブジェクトを紹介してくれ？

…ああ、そんなことも言ってたな。

分かった、まずは初心者向けと言っても過言ではないオブジェクトを紹介しよう。

今やSCPの知識がそこまでなくても知っているだろう、SCP—173 彫刻 オリジナルさ。

SCP—173 彫刻 オリジナル

オブジェクトクラス Euclid (收容しにくい。又は知性を持つ。)

特別收容プロトコル 常に施錠されたコンテナの中。部屋に入る時は絶対に3人以上で、1人がコンテナ内を清掃している間は残り2人が173を注視し続ける。全員入ったら一旦扉は閉められ鍵をかけられる。しなかつたら何が起こっても知らんからな。

特別收容プロトコルってなんぞや？と思っただろ？

特別收容プロトコルってのはそのオブジェクト専用の收容方法さで、こつから説明に入る。

コイツの見た目はコンクリートと鉄筋の像にスプレーがかけられていてるって感じだ。

はつきり言って不気味である。

コイツの異常性は、目を離すと急に動き出して目を逸らした人間の近くへ高速で移動し首をへし折る。

知性を持っておりスツゲエ敵対的。

なお会話はできない模様。

オリジナルつつつてるけど他には居ない…居ないよね？  
じゃあずつとコンテナに監禁しとけば？

と、思うじゃん？

コイツな、たまに排泄物と血液的なやつでコンテナ内汚すんよ。  
ばつちい。

だから、Dクラス職員を使って部屋を掃除するんだ。

え？Dクラス職員ってなんぞや？って？

まあ、Dクラス職員は簡単に言えば捨て駒かモルモットだ。

ヒドイ！財団サイテーツ！人間のクズ！アホ毛!!

って思うだろうが、実はコイツら大半は死刑囚か、やらかした研究員なんだ。

しかも死刑囚には、一ヶ月働くと死刑は免れて自由の身なんだ!!!  
最高だね!!

まあ、殆どの場合は記憶を消されて最初からか終了殺害のようなもの。命の終了。されるんだけどね

ちなみにDクラス以外に、Cクラス、Bクラス、Aクラスが居るよ。

じゃあなんで3人なの？2人で行ってもう片方が片目で見てる間に掃除すれば良いじゃん!!って？

コイツな、片目で見ても首折られんのよ。

さて、ここでオレが機動部隊に居たとき173と対面した話をしよう。

あれは…今年かやのの正月くらいだろうか。

そのとき、オレたち蚊帳あつちの外は本部あつちに呼ばれて日本支部には居ない  
オブジェクトたちにはしゃいでいた。

子供みたいと言われそうだが、あつちには文献でしか知らない面白い  
オブジェクトやスゲーオブジェクトがたくさん居るんだ。

(W博士のことではない!!!)

そんな時、SCP—173が收容違反を起こしたと放送で流れて  
な。

たまたま居たオレたちも再収容に協力して、見事173を収容できたんだ。

まあ、何人かやられたけど。

でも一度数十人で見つめればすぐに確保できた、アイツに対抗するにはやっぱ数だな。

え？何人死んだかって？

さあ。

ま、k e t e r の収容違反の割合に比べればコイツの収容違反率なんて低い方だ。

全く：あの頃はいろんなオブジェクトが収容違反してて楽しんでたなあ

ウウウウウウウウ!!!

緊急事態発生 緊急事態発生。

オブジェクトクラス ???? のSCP—??—j p が収容違反を起きました。

????部隊は再収容に努め、研究者達はサイトから非難してください。突然、研究室のスピーカーから耳が痛くなるほどの警報が鳴り、SCPオブジェクトが収容違反したことを淡々と告げる。

「紅井博士！早く避難してください！」

さっきの警報を聞いたからだろう、紅井博士の助手が扉を開けて叫んできた。

「ん？ああ、先に行つといてくれ。」

「ですが…!？」

「…これは命令と捉えてくれ。分かるな？」

「ツ……分かりました…すぐに避難してくださいよ」

アホ毛の発するはずのない威圧感に、助手は少し躊躇いながらも研究室から出て行った。

さて、俺も再収容に協力するかな。

ん？避難しなくて大丈夫なのかって？

大丈夫大丈夫、俺はアホ毛だし死なないって。

んじゃ、一狩りいこうぜ!!

アホ毛の周りに両刃のブーメランが浮かぶ。

研究室の扉が開き、ブーメランと共にアホ毛が扉の奥へ進む。

え? どうやってブーメランを浮かせてるって?

さあ。